

ふたりの卑弥呼が音楽と舞踊で織りなす 幻想の祝祭空間へようこそ

古代祝祭劇
太陽の記憶

卑弥呼

ヴァイオリニスト
大谷康子
対談
歌舞伎役者
中村児太郎

Memories of the Sun Goddess "Himiko"

邦楽、洋楽、歌舞伎、舞踊など、古今東西の多彩な伝統芸能を融合させた古代祝祭劇「太陽の記憶—卑弥呼」。この前代未聞のステージで音楽上の卑弥呼を表現する大谷康子さんと、舞踊上の卑弥呼を演じる中村児太郎さんが、作品にかける思いを語り合いました。



ヴァイオリニスト 大谷康子氏

悠久の大地を思わせる
広がりのある音楽

大谷 この作品は、以前からの友人である歌舞伎俳優の中村福助さんが長年温めてこられた企画です。震災以降、社会全体にぬぐいきれない閉塞感が漂う中で、「日本を元気にしたい」という思いが核にあり、それに賛同してくれる仲間が集まったことで実現に向かつて動き出しました。

中村 先日、初めて作曲家の菅野由弘さんが書き下ろした音楽の演奏を耳にすることができたのですが、情景や場面が目には浮かぶような旋律が印象的でした。音楽を聴いただけで、「こう踊ったら？」というイメージがその場でたくさん湧いてきたんです。

大谷 卑弥呼というスケールの大きな題材にふさわしく、まるで大地の広がりが目には浮かぶような素晴らしい音楽です。洋楽器14名、和楽器12名というこれまでにない編成には不安もありましたが、実際に演奏すると、その新鮮な音の渦にびっくり。そこに児太郎さんから踊り手やコーラス(聲明)も加われば、本当に新しく、素晴らしいものができるかと確信しました。中村 現在は演出の父(中村福助)とよく話し合いながら、振り付けを含めたイメージを固めていると



歌舞伎役者 中村児太郎氏

ころです。卑弥呼はどこかつかみどころのない存在ですが、そこをどう踊りで魅力的に表現できるかが大事ではないでしょうか。今回は一から作るという意味でも、私にとってはチャレンジだと思っています。

想像力をかき立てる
ふたりの卑弥呼に注目

大谷 児太郎さんが踊りで具現化された卑弥呼を演じるのに対し、私は音で卑弥呼を表現します。時には児太郎さんの舞踊に私の音を重ね、時にはこちらの方から仕掛けることで、観ている方のイメージを刺激する。さらには私の演奏がほかの演奏者たちにも影響を与え、そこからどんな化学変化をホール全体に及ぼすことができるのか、自分でも楽しみに思っています。

中村 普段、歌舞伎座をはじめめとして歌舞伎を上演する劇場にしか出演のない私にとって、コンサートホールという舞台そのものが新鮮です。当然ホールの形状を生かした演出に変わってきますし、この席でご覧になっても分かりやすいものを作りたいと思います。また、クラシックを中心に聴かれているお客様にとっても、刺激的な舞台をお見せできるように頑張りたいと思います。

大谷 お客様には古代の民衆になったつもりでホールの客席を埋め尽くしていただき、卑弥呼の時代の夢やロマンを存分に感じてもらえればうれしいですね。

古代祝祭劇 『太陽の記憶—卑弥呼』

11月26日(水) 14:00 開演
福岡シンフォニーホール
S7,000円 A5,000円(学生券2,500円)

企画 中村福助(演出)
菅野由弘(作曲・指揮)
大谷康子(ヴァイオリン)
常磐津文字兵衛(中棹三味線)

出演 中村児太郎(舞踊)
中村梅彌(舞踊・振付)
堤剛(チェロ) 他



お問い合わせ
お申し込み
●アクロス福岡チケットセンター
092-725-9112 (10:00~18:00)

●アクロス福岡
http://www.acros.or.jp

最新情報は アクロス福岡 検索
※予定枚数終了となっている公演・席種もございますので予めご了承ください。